



# 反転の バルコニー II

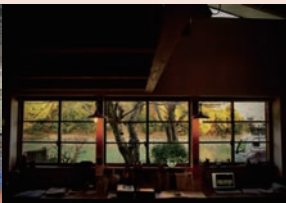
“反転のバルコニー” キャンバスに油彩 170×170cm 2020

六月の緑のなかに私はダイブした。風景の上下左右が一瞬にして入れ変わるなかで、脳細胞は遠心分離されたかのように激しく覚醒する。絵を描き出す一歩として、宙に躍り出た私の身体は、強い光の束で受け止められ、そして何度も放り返される。その緑り返しを楽しむように、私は画面という未知なる皮膚に新たな感覚を見出すのである。

**NOBUAKI  
WATANABE**

**5.8—30 2021**  
12:00am-7:00pm  
Closed Mon / Tue / Wed

2kw gallery



「植物は、行為のひとつの解析であり、空間に於ける独特な弁証法なのだ。直前の行為の分裂による前進。動物の表現は口頭で行われるか、あるいは、次々と消える身振りによって演じられる。植物の表現は断乎として書かれるのだ。・・・彼らの身振りの一つ一つは人間と人間が書いたものとの関係のように、ただ痕跡を残すばかりではなく、一つの現存を、手の施しようもない、くしかも、彼らから切り離すことが出来ない一つの発端をのこしているのだ。彼等の姿態、あるいはく生きている絵画」。無言の願望、懇願、強靱な静寂、勝利」(フランシス・ポンジュ「物の味方」阿部浩一訳より)

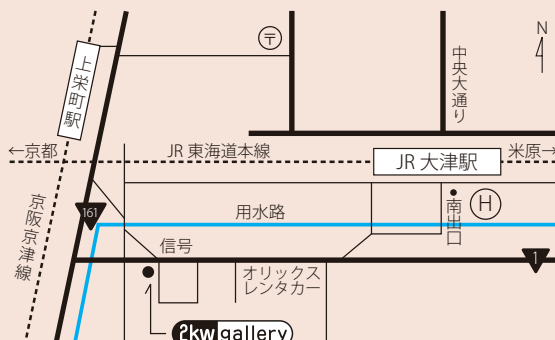
2015年6月、京都「ギャラリーすずき」での個展のとき、渡辺信明は「放電の庭」というタイトルで印象的な文章を記している。「蒸れた匂い、擦れる音、光る水滴。生い茂ったオールオーバーな庭空間に身を沈めると、そこには失った遠近が新たな活気を帯びる絵画的磁場を感じる。」壁には約2m×5mの巨大な作品が展示された。それは今までの彼の方法的展開であったとしても、描くテーマはより明快になり、自身を取り巻く風景、植物の様子が抽象的形態を取りながら、事物が孕む指向のあり方を「絵画的磁場」として感受し表現した。さらに自然に対する眼差しの持続が、その後の彼の展開に二つの要素を生み出した。それが糸状の「フィラメント」であり、つなぎ目としての「シナプス」であった。この二つの要素が彼の絵画をより豊かなものにし、さらに可能性のあるものになっている。それは、風景を表層の視覚で理解する日常的な身体に対する「絵画的磁場」の立ち現われであり、風景が彼の外側だけでなく、身体の内側にもあり、二つの鼓動の重なりが形となり、電波となって絵画表面を作り出している。描かれたタブローは静と動が織りなすく生きていく絵画」となり我々の前に出現する。有機体としての人間には経験、記憶としての意識はもちろんのこと、それ以外の思考も内在している。植物が成長のために物を選んで伸びるように、意識を必ずしも前提にしない無意識的把握があり、肉体の大部分をカバーしている。それらの抽出作業が「フィラメント」と「シナプス」を作り出し、緊張関係を作り、絵画空間を作動させる。鼓動と光のもつれ合いがエロスの空間を醸し出し、見る人を魅了し、中毒にもする。まさしく彼の体内を流れるリズムが遠近のフィラメントになり、筆の先から放電されながら、シナプスに捉えられたものとなり、今、ここという現存から見られた新たなモナドとしてキャンバスに定着されている。それが彼の言う「画面という未知なる皮膚にあらたな感覚をみいだす」ことであり、破壊と創造の弁証法的絵画になるとも言える。

2kw GALLERY

2021年5月8日(土) - 30日(日)

■ 12:00am - 7:00pm 月/火/水 休廊  
■ 最終日 5月30日(日曜日)は 5:00pmまで

反転のバルコニー II



2kw gallery

〒520-0053 滋賀県大津市音羽台 3-29-1 TEL: 090-5241-8096  
E-mail: info@2kwgallery.com URL: www.2kwgallery.com  
JR 東海道本線大津駅南口改札より徒歩5分  
京阪京津線 上栄町駅より東南へ徒歩8分